

Kids Wave きっずうえいぶ

社会福祉法人

大村子供の家



亡き卒園生からのおくりもの

戦後間もない創立から現在までおよそ1,230人が大村子供の家（児童養護施設）を巣立ち、それぞれの人生を歩んでいきました。中にはその長い人生を終え、亡くなったかたもいらっしゃいます。2020年3月1日に逝去されたSさん（女性）もその一人です。

ある日、Sさんの遺言執行人と名乗る弁護士から突然電話があり、施設の口座番号を教えてほしいとの連絡がありました。当初、新しい類の詐欺ではないかと困惑しましたが、昔のアルバム記録を引っ張り出して見ると、Sさんは弟と共に昭和20年代に子供の家に入所し、2年ほど生活されていたことが確認され、話を聞いていくうちにSさんが生前、施設に遺産の一部を寄付したいご意向があられたことがわかりました。アルバム越しにSさんの当時の写真と対面。当時6歳のあどけない、可愛らしい少女が施設を離れその後どのような人生を歩まれたのか・・・・ご本人は既に天国に召されており、直接お会いしうかがい知ることすらできません。弁護士から聞いて一つだけわかったことは「子どもの頃、弟と共に子供の家で大変お世話になり、晩年も感謝をされていた」ということ。当時は終戦直後の混乱期だったため、親と離れ2年間は子供の家で生活せざるをえず、その後ご親族が見つかり新たな生活が始まったのでしょう。Sさんのこのようなご意向の背景には、当時子供の家の先生方による献身的な養育と互いの信頼関係があったのだと思います。70年以上前の出来事が、長い時を経て蘇ってきたようでした。



今回 S さんからの無言のご寄付を受けて、様々なことを考えさせられました。人の肉体はいずれ衰え、亡くなっていますが、心は後世に引き継がれていくものかもしれません。長い時を経て、S さんの恩返しとも言えるこのご厚意を教訓とし、我が事ばかりを考えず、周囲への感謝・奉仕を忘れずに、子どもたちの未来に引き継いでいければと思います。

文部・広報委員会の活動紹介

す。対外広報委員会では、地域イベントや外部からの招待行事などの参加調整を行い、子ども達が少しだけ日常を離れ、さまざまな経験をしながら楽しい思い出作りが出来るように支援しています。本来なら、ミュージカルや朗読劇などの観劇、サッカー・野球の試合観戦、スポーツやキャンプを通じての他施設児童との交流、近隣のデイサービスなどを訪問しての地域の方との交流など多くの予定がありました。ただ今年はコロナ対策としてほとんどの行事が中止になり、未だ外部の方との交流も控えている状況です。もう少し情勢が落ち着いたら子ども達がまた多くの体験ができるよう取り組んでいかなければと思います。その他ホームページの作成・更新や施設DVDの作成も活動の一つです。さらに、この広報誌「きつづうえいぶ」も当委員会が作成に関わっています。発行当初は児童養護施設の子ども達の様子や活動内容を地域の皆様や関係各所にお伝えするためには作成されていましたが、第15号からは「社会福祉法人」として、放課後児童クラブ、小規模保育園、認定こども園の子どもたちの活動の様子も合わせてお伝えしています。子どもたちの生き生きとした様子を感じていただけると幸いです。

对外広
委員会

行事
委員会

研修
委员會

安心安全
委員會

世界の国からこんにちは

タンザニア連合共和国 United Republic of Tanzania

Presented by

Yuki Koga 古賀 裕希



Habari za muchana (スワヒリ語でこんにちは！) 今年の4月より大村子供の家で勤務している古賀裕希です。今回は、私が青年海外協力隊員として2年間派遣されていたタンザニアを紹介したいと思います。タンザニアは、東アフリカに位置しており、アフリカ最高峰のキリマンジャロ、野生の動物やマサイ族が多く住むセレンゲティ国立公園、アフリカ最大のビクトリア湖などなど大自然が多くある魅力たっぷりの国です。人々は陽気でチャーミングな性格の方が多く、道を歩いていてもバスに乗っても気軽に挨拶をしてくれ、すぐに友達になることができました。彼らは、アフリカ特有の文化を大事にしており、スワヒリ語という東アフリカ独自の言葉が国語（公用語）となっております。スワヒリ語は、日本語に良く似た単語や可愛らしい単語が多く、例えば、唐辛子（ピリピリ）水（マジ）飴（ピピ）ゆっくり（ポレポレ）顔（ウソ）首（シンゴ）と言うなどとても親しみやすかったです。主食は、ウガリと呼ばれるトウモロコシの粉を練って作ったもので、写真で自分が持っている皿の上有る白い球のようなものです。他にも食用バナナやお米、キャッサバもよく食べていました。ガスが通っていない場所が多いため、レストランに行くと、炭で豪快に焼く肉料理を食べることができ、毎日がBBQのような感じでした。アフリカには行けなくても、海外の料理に挑戦してみたり、BBQで大きなお肉を焼いたりするのも気分転換になるかもしれませんね。アフリカに興味がある方は、是非福崎ホームの古賀までお声掛けください。Asante sana(ありがとうございました)！

行事予定

10月・子供の家・キッズランド指導監査、小学校運動会

11月・・キッズランド運動会(6日、10日)、ブルーバス来園(7日) キッズホーム監査

12月・子供の家第三者評価

編集後記

世間では「ステイホーム」という言葉があまり聞こえなくなり、代わりに「ゴートゥー〇〇」をよく耳にするようになりました。感染防止と経済活動の両立を果たさなければなりませんが、極端な気もします。この 2 つの言葉はあらゆる言い訳に使える魔法の言葉です。どちらを使うかはあなた次第です。 KM

社会福祉法人 大村子供の家 〒856-0811 長崎県大村市原口町
591 番地2 TEL 0957-55-8319 FAX 0957-55-4661



b&g 放課後児童クラブ おおむら

最近のマイブーム

コロナ禍の影響でまだまだイベントなどを行うのが難しい時期ですが、b & g おおむらでは室内遊びがブームになっています。夏休み期間中は、勉強も遊びも取り組む時間がたくさんだったので、毎日ミーティングでどんなことがしたいか話し合いました。その中で子どもたちから出てきたのが「パズル」でした。最初はディズニーの300ピースのパズル。毎日少しずつ、みんなで協力して、完成した時はとても自慢気な表情を浮かべていました。出来上がったパズルは額に入れて飾ってみんなの見える位置に。一つ目のパズルに参加できなかった子たちも、完成したパズルを見て次は自分たちも…と、パズルに熱が入ったようでした。第二弾は低学年の子たちも楽しめる300ピースのすみっコぐらしのパズルと、上級者向けの1000ピースのラッセンのパズル。かわいい絵柄に惹かれて集中力も高まり、すみっコぐらしはすぐに完成しましたが、1000ピースのパズルはやはり難しく、スタッフも参加しながら進んでは崩れてを繰り返しつつ少しずつ完成に近づいています。



他にも子どもたちの間でブームとなっているのが「カードゲーム」です。その中でも子どもたちが特に夢中になっていたのが「ワンナイト人狼」と「大富豪」。最初は難しく感じていた子どもたちも回数を重ねるごとに大人顔負けのコミュニケーション能力を身に付けていました。子ども達が次は何に挑戦するか楽しみです。

認定こども園 キッズランド ～お楽しみ会開催～

新型コロナウイルス感染症の影響で色々な制約を受けていますが、園では3回にわたり屋外・室内において趣向を凝らした「夏のお楽しみ会」を行いました。各コーナーからは園児達の歓声が響き渡り、楽しいひと時を過ごすことができました。

第一回 9月4日(金) 屋外 水鉄砲やボールで「お化け」を退治したり、金魚や水ヨーヨーを楽しみました。この夏コロナで十分にできなかった「プール遊び」では短い時間でしたが園児達は大はしゃぎで楽しんでいました。



第二回 9月9日(水) 室内 屋内において、「モグラたたき」「輪投げ」「的当て」ボーリング」「ストラックアウト」「お化け屋敷」のコーナーを設け、園児達に楽しんでもらいました。「お化け屋敷」には先生に手を引かれて入っていく園児もいました。



第三回 9月18日(金) 室内 広い保育室に「巨大迷路？」を作り、未満児は先生に付き添われて迷いながら無事出口までたどり着けましたが、以上児は一人で迷路に入り…「お化け屋敷」前では事前に中の様子をお友達に聞いている子も…

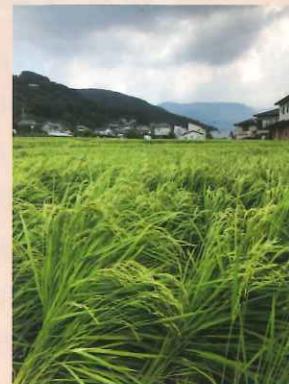


児童養護施設 大村子供の家 台風への備え！

今年は新型コロナウイルスに豪雨、そして大型台風襲来と大変な年になりました。幸いにも台風9号の影響はさほどありませんでしたが、「史上最大クラス」と報道された10号にはさすがに警戒し、地域小規模児童養護施設の子ども達を全員本体施設に避難させ、台風が通り過ぎるまで1泊2日一緒に過ごすことになりました。子ども達や施設を心配し、泊まり込んでくれる職員がいて本当に助かりました。子ども達はというとお泊まり会のようでは違うホームの子ども達と一緒に楽しく過ごす子もいれば、慣れない環境でストレスを感じる子どももいたようでした。

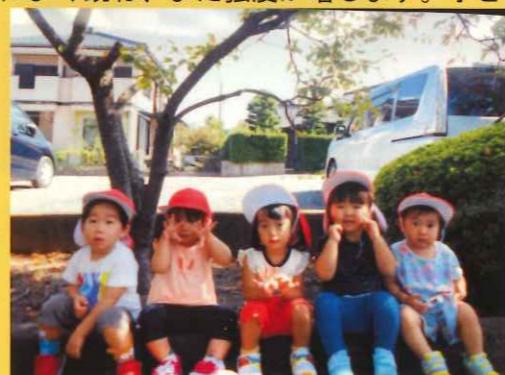
実際のところ、台風10号の勢力が弱まったことで、大きな被害はありませんでした。それでも本体施設の瓦が数枚飛び、乾燥機室（プレハブ倉庫）に一部穴が開いてしまいました。勢力が弱らずそのまま襲来していたらと考えると、ゾッとして、改めて自然災害の恐ろしさを実感しています。

後日、離れた建物や、育てている農作物の状況確認にも出かけました。秋に収穫を予定しているもち米の稻は数本倒されていたものの、ほとんど被害はなく、しいたけの原木も無事でした。農家の方々の日々のご苦労を身に染みて感じる機会となり、また食べ物のありがたみについても考えさせられました。今後、異常気象により深刻な自然災害が頻繁に発生しうることが予想されます。日頃の備えをしっかりと行うと共に、悲鳴を上げつつある環境問題にも、十分関心をもっていかなければいけないと感じています。



小規模保育園 キッズホーム

キッズホームでは、コロナ禍の影響で毎年恒例のバス遠足が中止となり、なかなか集団でのお出かけが自粛される中、敷地内のお散歩をしたり、室内でできる遊びを工夫しています。先日は子ども達と一緒に手作り風船ボールを作りました。風船の上にビニールテープを張り付けると、普通のボールみたいによく跳ね、また強度が増します。子どもたちにも好評でした。



施設内の散歩では普段慣れ親しんでいる場所にも毎日、小さな発見があります。見たことのない虫や草花を発見し子どもたちも興味津々。2匹のヤギも子ども達が遊びに来てくれるところを嬉しそうに見えます（餌をもらえると思っているのかな）。これから秋も深まり、この季節にしか体験できない遊びを積極的に取り入れていきたいと思います。

ご寄付・ボランティア御礼

日頃より皆様方からの子ども達に対する温かいご支援とご理解本当にありがとうございます。東京デザインオフィス様より、昨年に引き続き秋冬物のニットをご寄付いただきました。ファッショントリートメントの秋ということで、体育館にいただいた服を並べ、子どもや職員が自分の好きな服を選んでそれぞれとらせていただきました。「これかわいい！」「これがいいかな～」と悩む子ども＆大人達。自分が選んだニットを身にまとい、外を出歩く季節が間もなくやってきそうです。

